

令和4年度（2022年度）北海道高等学校教育課程研究協議会

12月8日（木）、上川合同庁舎において、北海道高等学校教育課程研究協議会が行われました。今年度は、「探究的な学びの推進のための学習評価の在り方」及び「新学習指導要領における学習評価に係る校内規定の在り方」をテーマとして、上川・留萌・宗谷・空知・オホーツク管内の公立学校から69名の教務担当教諭が参加し、研究協議等を行いました。宗谷管内からは8名の教諭が参加し、自校の教育課程の編成・実施上の課題を解決するための方策について理解を深めました。

日時：令和4年12月8日（木）
会場：上川合同庁舎
時程：10：00～ 開会式
10：10～ 高等学校教育課程編成・実施の手引「総則」に係る説明
上川教育局高等学校教育指導班主査 西埜 聡明
10：30～ 講演
「資質・能力を育成するパフォーマンス評価」
京都大学大学院教育学研究科教授 西岡加名恵 氏
13：00～ 提言
「余市紅志高校の観点別学習状況の評価について」
北海道余市紅志高等学校教諭 太田 絢子
13：30～ 研究協議
15：45～ 閉会式

開会式及び講演の様子



宗谷管内から参加した教諭の様子



宗谷管内からの参加者は、各校における課題解決のために、積極的に協議等に参加していました。

閉会式では、北海道教育庁学校教育局高校教育課高校教育指導係長から、以下のようなまとめがありました。

- 1 教務主任のリーダーシップのもと、新学習指導要領において求められる探究的な学習を推進するためには、ペーパーテストだけでなく、多面的・多角的な評価を取り入れる必要がある。
- 2 各教科において、多面的・多角的な評価を進めるためには、学校全体で学習評価に関する理解を深め、よりよい評価体制を構築していく必要がある。
- 3 よりよい評価体制の構築のためには、引き続き、全職員が学習評価に対する理解を深めるための研修に努め、校内規定の見直しの必要性について検討する必要がある。

本研究協議会の内容を学校全体で共有し、今後も各校における教育課程の改善を継続してください。（高等学校教育指導班 加藤洋平）